いわ　だたみ
石畳

～秦氏との関わりが推測される河辺の祭祀遺跡～

資料番号 K12

初版：2025.11.3

目次

1．おすすめポイント
2．説明
3．現地写真
4．「鳥の目」で
5．アクセス

1．おすすめポイント

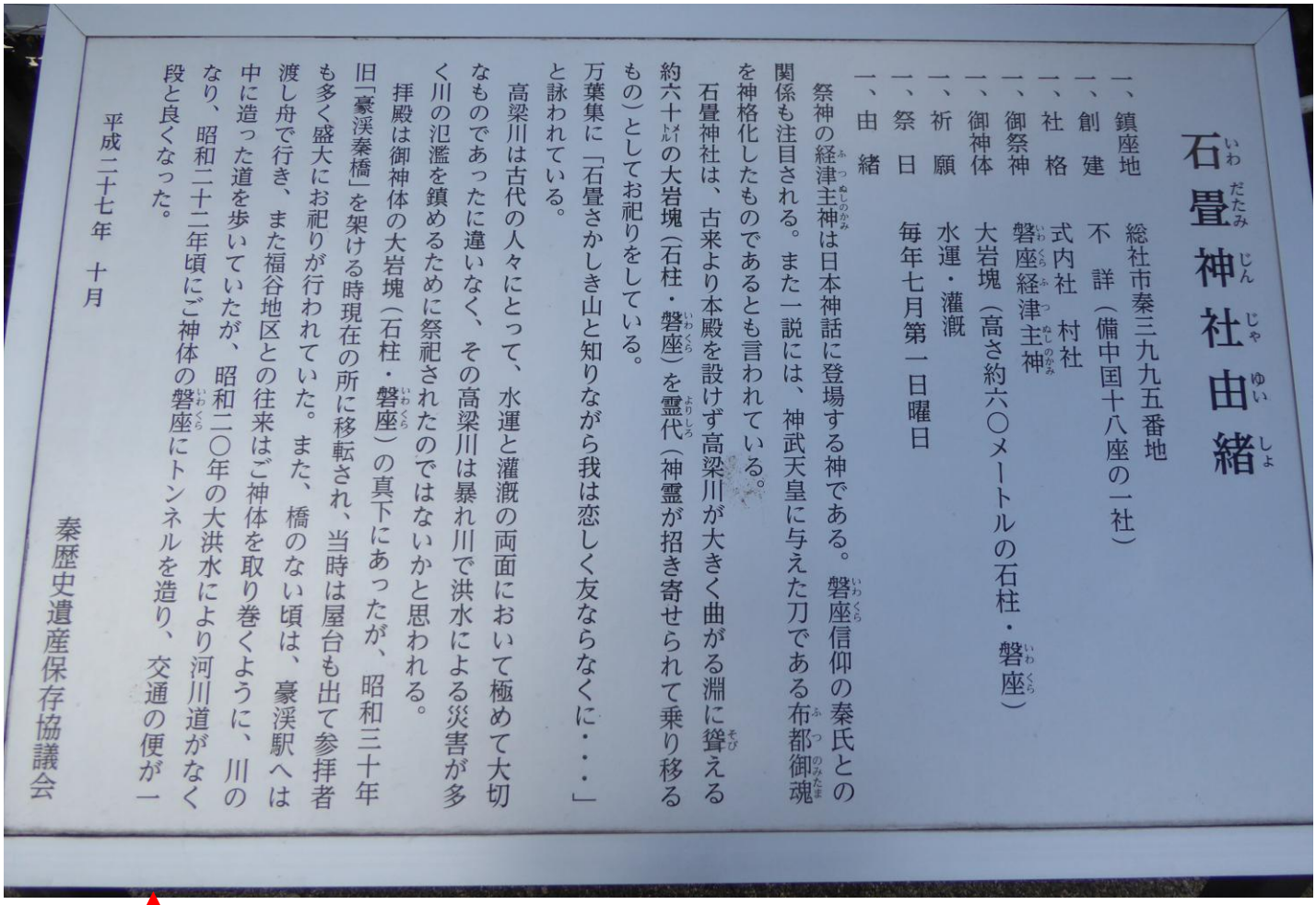
★自然と祈りたくなる奇跡の造形

　水運や灌漑など生活に欠かせなかったであろう高梁川の河辺にこのような造形があれば自然と奉斎したくなるのも納得

★近隣の地名（「秦」）は秦一族の居住地であったことがその由来と考えられています。廃寺跡、一丁ぐろ古墳群、麻佐岐磐座など付近の遺跡と秦氏との関連を探る研究が期待されます

©2025　吉備鳥瞰　All Rights Reserved

2．説明



石畳神社由緒

一、鎮座地　総社市秦三九九五番地
一、創　建　不　詳（備中国十八座の一社）
一、社　格　式内社　村社
一、御祭神　磐座経津主神
一、御神体　大岩塊（高さ約六〇メートルの石柱・磐座）
一、祈　願　水運・灌漑
一、祭　日　毎年七月第一日曜日
一、由　緒

祭神の経津主神は日本神話に登場する神である。磐座信仰の秦氏との関係も注目される。また一説には、神武天皇に与えた刀である布都御魂を神格化したものであるとも言われている。

石畳神社は、古来より本殿を設けず高梁川が大きく曲がる淵に聳える約六十メートルの大岩塊（石柱・磐座）を霊代（神霊が招き寄せられて乗り移るもの）としてお祀りをしている。

万葉集に「石畳さかしき山と知りながら我は恋しく友ならなくに・・・」と詠われている。

高梁川は古代の人々にとって、水運と灌漑の両面において極めて大切なものであったに違いなく、その高梁川は暴れ川で洪水による災害が多く川の氾濫を鎮めるために祭祀されたのではないかと思われる。

拝殿は御神体の大岩塊（石柱・磐座）の真下にあったが、昭和三十年旧「豪渓秦橋」を架ける時現在の所に移転され、当時は屋台も出て参拝者も多く盛大にお祀りが行われていた。また、橋のない頃は、豪渓駅へは渡し舟で行き、また福谷地区との往来はご神体を取り巻くように、川の中に造った道を歩いていたが、昭和二〇年の大洪水により河川道がなくなり、昭和二十二年頃にご神体の磐座にトンネルを造り、交通の便が一段と良くなった。

平成二十七年　十月

秦歴史遺産保存協議会

2-1

2-2　神社下の駐車スペースに設置された由緒プレート

2020.8.16

2-3

©2025　吉備鳥瞰　All Rights Reserved

3．現地写真

2020.8.16

3-1　石畳神社（辺津宮）御神体は磐座

3-2

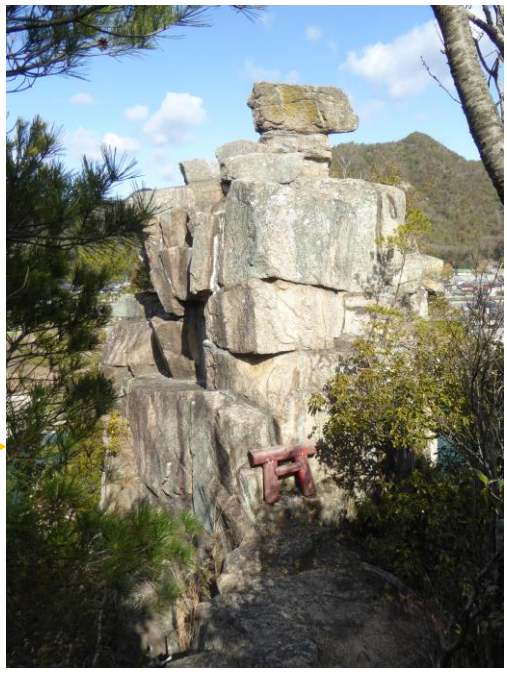
2020.2.9

3-3

2020.12.6

3-4　神社脇の登山道を少し上ると写真のような枝道があり磐座頂部の裏側に行くことができます

2020.2.9



3-5　磐座頂部裏側

©2025　吉備鳥瞰　All Rights Reserved

3-6

2020.2.9

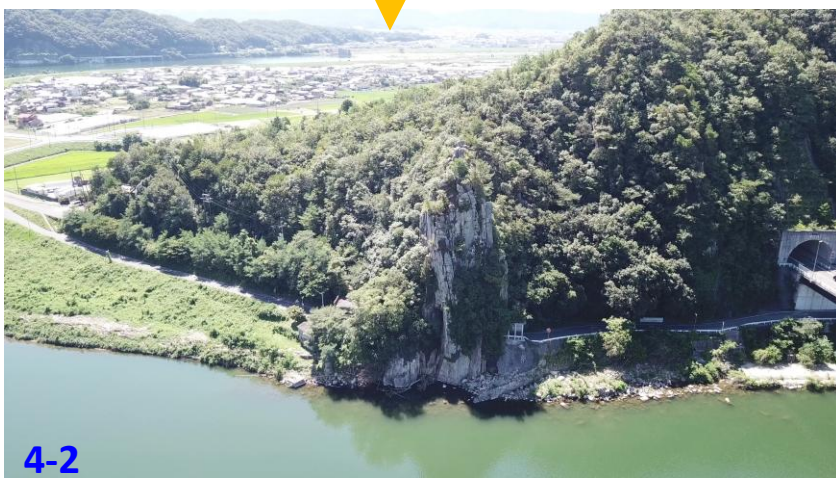
3-7

©2025　吉備鳥瞰　All Rights Reserved

4. 「鳥の目」で

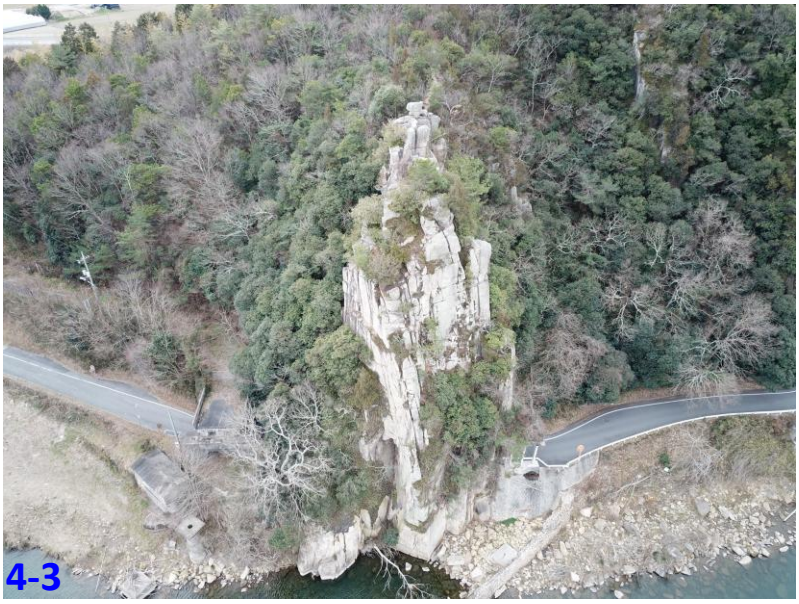
4-1　2020.8.16

上写真に見える平野部は往古「秦氏」の居住地。地名に残る（下図）



4-2

4-4　地理院地図に赤で追記



4-3　2020.2.9

©2025　吉備鳥瞰　All Rights Reserved

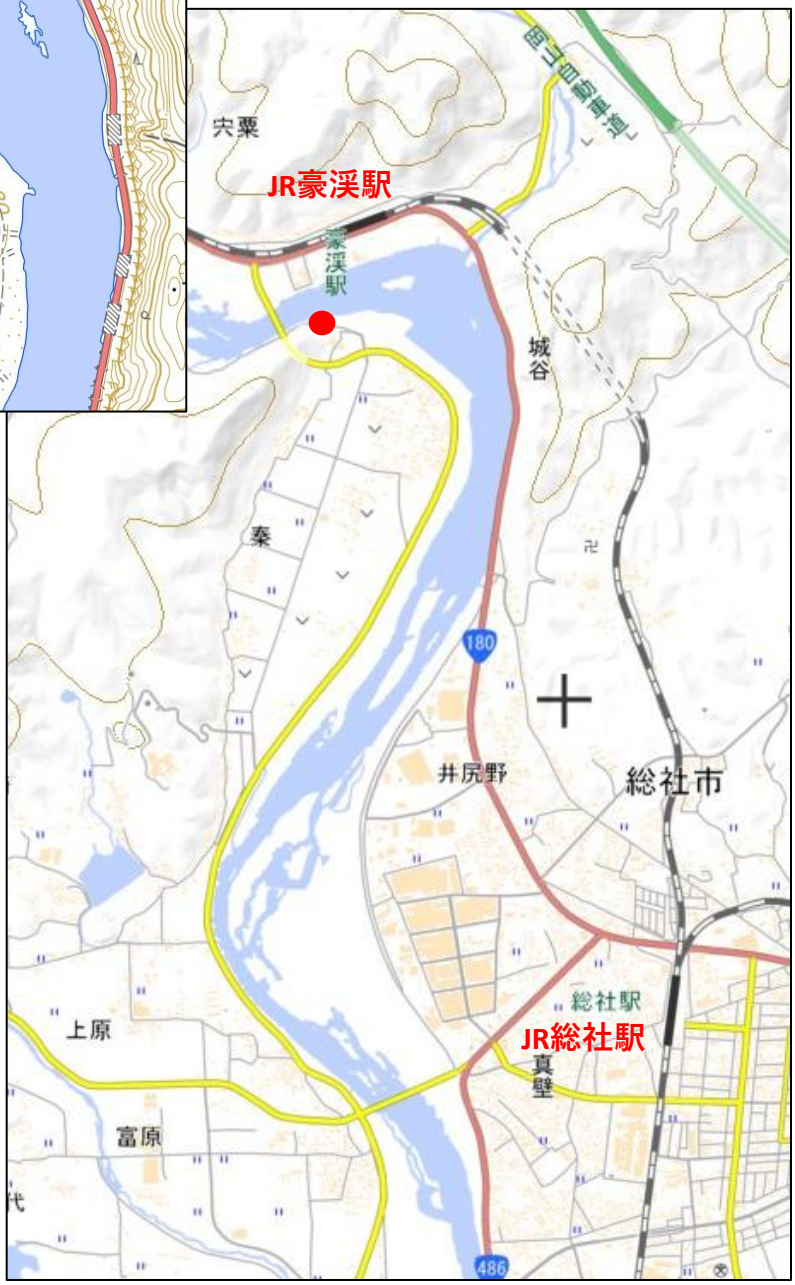
5．アクセス

地理院地図に赤で追記

JR豪渓駅からは徒歩で30分弱くらいです

石畳神社には数台分ですが駐車スペースがあります。

JR総社駅からは車で10分くらいです



©2025　吉備鳥瞰　All Rights Reserved